

平成 27 年度 福岡地区高齢者相互支援リーダー研修会 開催

平成 27 年 7 月 16 日（木）大野城市「まどかびあ」多目的ホールにて福岡地区「高齢者相互支援リーダー研修会」が開催されました。今回の福岡地区の支援活動員のリーダーの方々が 120 名参加されました。

研修内容は単位クラブ新任会長研修会と同様、福岡県消費生活センターから「悪質商法」「二重電話詐欺」について注意喚起を含めた内容のお話をいただきました。福岡県は昨年と比較して 2 倍を超える被害額ということで、機会あるごとにお話をいただいています。とにかく皆さん気をつけてください。「電話でお金の話は全て詐欺！」と思ってください！その後、福岡県高齢者地域包括ケア推進課より「高齢者の福祉について」ということで県の施策等をお話いただきました。

休憩を挟み、福岡県老人クラブ連合会事務局より「高齢者相互支援活動」について、活動が始まりや今までの経緯、そして活動について等を説明させていただきました。



午後の部は朝倉市老連の豊島会長に座長を務めていただき、支援活動員として活動されているお二人の方に事例発表をしていただきました。参考になればと内容についてまとめました。

お一人目は 筑紫野市老連の本田 正事務局長より「仲間の輪を広げる取り組みについて」ということで発表は以下の内容です。

平成 9 年から 18 年間、老人クラブ活動に携わってきました。その活動の中で、最近疑問を感じており、今回の事例発表の機会にここで一度立ち止まって検証してみた。

● 『一度、目を老人クラブの外に向けてみよう！』

老人クラブの活動は、大半がクラブ内部に向けられ、**クラブ外への発信力が非常に弱く、不足している。**

→ 筑紫野市老連では原点に立ち返り、まず市行政へのアプローチから始めることにした。

● 『老人クラブ活動の実態をもっと市民に P R しよう』

“ **市長を困む懇談会** ” を筑紫野市へ要望して 3 年間実施。

しかし、筑紫野市民の方々に『老人クラブ活動』について発信する機会はなかった。

そこで、“ **市の移動市長室** ” に当連合会を指定してもらい、筑紫野市に対して老人クラブの活動について報告と課題

要望を出したところ、市長をはじめ特に老人クラブに関係の深い

筑紫野市の各部課長に出席いただいて意見交換の場を設けてもらう

ことが出来た。

特に筑紫野市老連からは『会員増強』についての取り組みと現状を報告し、筑紫野市へ協力要請をしたところ



市のホームページや広報誌『ちくしの』（月2回の発行）のH26年1月15日号に詳しく**老人クラブの記事が掲載**され、またその後、H27年5月1日号では**老人クラブ会員増強のため特集を企画記事も大々的に掲載され市内全家庭に配布された。**

これまでの筑紫野市へのアプローチ効果との因果関係は明確ではありませんが、毎年減少傾向にあった筑紫野市老連の会員数については、当初の目標達成まではいきませんでした、**77名純増**となりました。

高齢者相互支援事業についての事例

所属している単位クラブ活動事例として、区の民生委員と福祉委員も老人クラブに加入しており、積極的に活動している。組み別に担当を決め、1人暮らしの方の安否確認を常時行っている。

会員の8割以上が参加する総会や忘年会などの行事に参加できなかった会員については、当日役員が手分けして訪問しているとのこと。

現在は『安否確認』が中心であり、『生活支援』や『技術支援』まで至っていないが、コミュニケーションは十分取れている。

今回の発表で本田事務局長さんより『**老人クラブの活動は大半がクラブ内部に向けられており、クラブ外への発信力が非常に弱い！**』というお話がありましたが、県老連事務局も同様な思いを持っています。

自治会でも校区でもまず『老人クラブの存在や活動』を知ってもらうことが、一番の会員増強運動の入り口だと思っています。

お二人目は 那珂川町老連 王塚台さざんかの会 小川千代香女性部長さんより「地域との連携強化で活発な友愛活動を推進」という題名で発表していただきました。発表は以下の内容です。



王塚台区では毎月1回、「まちづくり委員会」と「福祉会」の主催で那珂川町高齢者地域支援課地域包括支援センター、社会福祉協議会も参加で『情報交換会』を開催されている。

メンバーは自治会・公民館・子ども会・地区委員・民生委員・さざんかの会等、20名が集まり情報交換を行っている。

安否確認等の情報が共有できるのが大きなメリットである。

支援活動員として活動されるときには『生活支援ではなく、さりげない支援を心がけている』ている。

例えば、園芸好きなBさんとは、花壇と一緒に鑑賞しながら、花つくりの要領などを教えてもらいながら、さりげなく生活面のことをお聞きする。

現在は『愛の一声運動』だけですが、介護保険制度の改正に伴い、市町村が取り組む『新地域支援事業』の支援の担い手として那珂川町の高齢者支援課・社協・民生委員・自治会等との連携を強めて多様な生活支援に備えていきたい。

小川女性部長さんの発表をお聞きして、以前もある研修会で講師の方が「自治会」「老人クラブ」「民生委員」など地域の団体等と上手く連携が取れているところは、老人クラブ活動も上手く運営されているという内容を話されていましたと

紹介しましたが、全くその通りだな～と感じました。

『情報共有』することで、『見守り活動や支援活動』の幅も広がると思います。

お二方の発表内容で共通しているのは『行政関係』や『外部の団体』との情報共有とコミュニケーション！

あとは『老人クラブを外部の人に知ってもらう！』

皆さん、様々な活動を色々な方法で『発信』してください！よろしくお願いいたします。

参加の皆さんより質問等もあり、盛会のうちに終了しました。今後は様々な場面で支援活動員の活動が地域を支えていくことになると思います。今後のヒントになれば幸いです

座長の豊島会長さん、事例発表をされました本田事務局長さん、小川女性部長さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。

この高齢者相互支援リーダー研修会は地区毎の研修会であるため、活動内容についても地域の特色等もあります。

他の地区研修会の内容をご紹介することで、少しでも高齢者相互支援（愛の一声運動）のお役に立てればと思います。

